

会報

会費振込先 第一勧銀川崎支店東北大学ワンダーフォーゲルOB会
普通口座 「370-1881604」

鈴木禄弥先生を囲んで

後藤龍男 (昭和39年卒)

去る8月29日、東京八重州の富士屋ホテルに鈴木先生ご夫妻をお招きしてOB会が開かれた。先生が今年東北大学を退官されたのを機会に、TUWV初代部長として長年お世話いただいたことを謝し参集した訳である。奥様にもご同伴頂き、50数名のOBが一堂に会し、楽しい一夕を過ごした。

部長をお引き受け頂いたのは昭和34年、先生が法学部教授として着任されて間もなくのこととお聞きしている。小生が入学、入部したのが翌35年、丁度60年安保の嵐が吹き荒れた年であった。以来30年近い年月が過ぎている。

当時は部の創世期でもあり、初代部長として種々ご苦勞をおかけしたと思っている。小生自身、先生にお目にかかるのは卒業以来23年ぶりである。お二人とも髪に白いものが増えられた点を除いてはお変わりなく、ご挨拶もそこそこに懐古談に花が咲いた。

泉ヶ岳や飯豊山などご一緒した数々の山行の話に始まり、ご馳走になった奥様の手料理が仙台で一番美味だったという奴、うじうじしていたら先生から一喝され、泡くって結婚したという奴、遭難騒ぎの後小出駅前食堂で先生からご馳走になったのがカツドンだったという奴等々・・・食物の話が多かったのは貧しかった昭和30年代の名残であろうか。

先生が部長としてTUWVと初めて係わられた頃のお年が現在の我々の年齢よりずっとお若かったことを思いついて、つくづく時の流れを感じた。今年から文学部助教授の野家君が3代目部長就任とのこと、鈴木先生以後2代も部生え抜きの部長が誕生しているのだから、TUWVも長い歴史を刻んだわけである。これもひとえに先生と奥様のお心遣いの賜物と感謝！！

参加者

(S39) 後藤、佐藤、松木 (S40) 及川、小原、島崎、鈴木、関川、野村、緑川、八木 (S41) 大塚、桜、渋川、館岡、谷、藤田、吉田 (S42) 新井、加藤(邦)、原田 (S43) 五十嵐、藤森、村山、上田 (S44) 佐藤(良)、佐藤(拓)、守護、宮下、濱、三日月 (S45) 富川、原田、桃谷 (S46) 田中、野家 (S47) 秋田、仁藤 (S48) 陰山、藤田(真)、神田、松井 (S50) 野家(裕) (S51) 鳴田、堀江 (S53) 佐藤、田沼 (S55) 大竹、加藤、佐野 (S56) 丸山

初めは東京周辺の人しか集まらないのではないかと思っていましたが、ずいぶん遠くからも集まりました。北からは札幌の上田さん、泉の大塚さん、秋田の館岡さん、鳴子の大竹さん、仙台の八木さん、守護さん、野家夫妻、福島に加藤さん、西からは清水の佐藤さん、岐阜の原田さん、塩尻の藤森さんが駆けつけてくれました。前部長の吉田さんは広島に転勤の途中で寄ってくれました。また、残念ながら参加できなかった方 人から記念品代をいただきました。

** 記念品 --- 笠間焼とテレホンカード **

鈴木先生には長い間お世話いただいたことへの感謝の気持ちを込めて、笠間の陶芸家の手による大皿と壺をお贈りする予定です（窯出しは12月中旬の予定です）。良い記念になるものと思っています。これに対して、先生からは多額のお礼を戴きましたので、先生ご夫妻の写真を使って小原さんがデザインしたテレホンカードを、参加いただいた方と記念品代を寄付していただいた方に送ります。

.....

部長就任のご挨拶

第10期OB 野家啓一

この度、前部長の吉田公平先生（第5期OB）が広島大学に転任されることになり、はからずも私がその後を受けてワンダーフォーゲル部の部長をお引受けすることになりました。初代の鈴木禄弥先生から数えて三代目ということになりますが、何分にも若輩の身、前任者のお二人に比べて貫禄のないこと甚だしく、正直言って心許なく思っている次第です。幸いにも、これまで副部長を務めてこられた直江真一さん（第15期OB）が引き続き協力して下さることになっておりますので、おぼつかないながらも二人三脚の体制でこれからのクラブを盛り立てていきたいと思っています。

とりたてて抱負といったものではありませんが、昨年一昨年と事故が続いておりますので、交通標語ではありませんが「無事故」を第一の目標に掲げて現役部員の活動を側面から援助して行きたいと考えています。最近では部員の考え方も活動内容もわれわれの頃とは大きく様が変わりし、時に「新人類」の行動には違和感を覚えることもありますが、山登りの基本と自然を愛する心については、今も昔も変わりはないものと思います。幸い、山に登ることと酒を飲むことにかけては、まだそれほど衰えてはいないつもりですので、学生諸君の良き相談相手になることができればというのが現在の心境です。

「売家と唐様で書く三代目」という川柳もあるように、どうも三代目というのは、初代と二代目が築き上げた財産を食いつぶして身代を無くしてしまうのが世の習いのようなのです。そうならないよう、これまでの伝統を守り育てていくことに微力を尽くすつもりですが、そのためにもOBの皆様のお力添えが不可欠です。これからのクラブの発展のためにOB会のご指導とご助力をお願いして挨拶に代えさせていただきます。

自然を自然のままに

佐藤拓哉（44年卒）

以前にこのOB会報でも紹介した知床100平方メートル運動も、今年は林野庁の伐採の強行などもあり、多くの人々の関心を集めました。その結果、実質的な伐採中止という林野庁の大幅な計画変更となったことは、官僚社会の日本では驚くべきことと言ってもいいようなことでした。自然保護運動というと、いつも最後は悔し涙を流すことの連続という感が強かったが、その意味では久々の快挙でした。人それぞれに色々な思惑があったこととは思うが、自然を大切にしようとする人が多かったと素直に受け止めたい。

これとは別に、8月の毎日新聞に北アルプス双六谷のダム建設計画の記事が載っていました。これまでの日本は余りにも生産性向上に重きをおいて来たため、同時に多くのものを失ってきたように思います。自然もその一つです。一度破壊したら二度と元に戻ることのない自然を守ることは、青春の一時期を自然の中で過ごした者の責任でしょう。

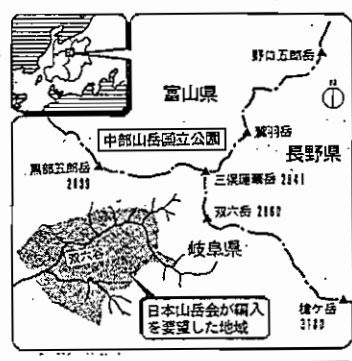
北ア・双六谷

岳人の聖地・双六谷(すろくたに)の溪谷美を守れー北アルプス・双六岳西方にある双六谷上流(岐阜県吉城郡上宝村)は、アルピニスト以外、足を踏み入れにくい秘境。その溪谷が資源エネルギー庁の報告書で、北陸電力(本社・富山市)の新しい「水力発電用ダム計画地」になっていることがわかり、日本山岳会(今西寿雄会長)は、ダム反対の立場から「上流一〇キロ流域を新たに中部山岳国立公園に編入して溪谷美を守って欲しい」との異例の要望書をこのほど環境庁に提出した。山男たちは「黒四ダムと同じ山岳景観破壊の過ちを再び繰り返すな」と今秋にも現地調査し、運動を盛り上げる構えで、電力会社だけでなく、国有林を持つ林野庁にも波紋が広がっている。

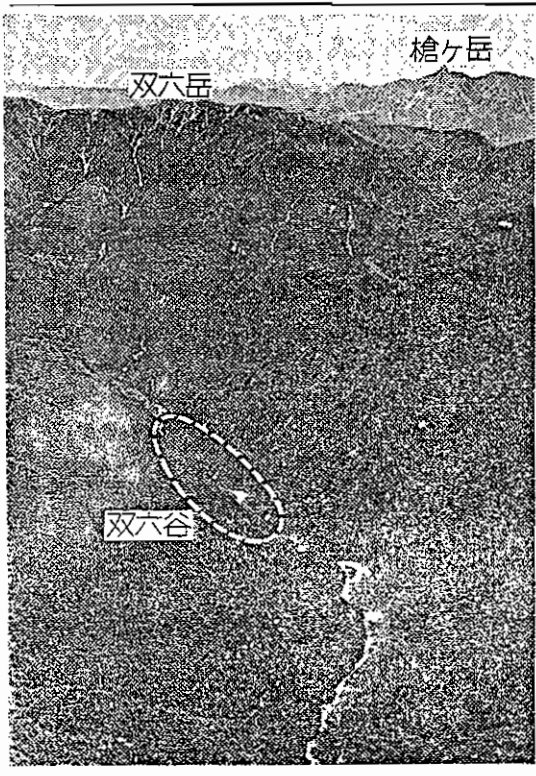
秘境にダム計画 反対「山男立つ」

双六谷は本流の高瀬川まで(〇キロ)東方の双六小屋直下の流域延長約四〇キロ。うち約三〇キロは人家もなく、兩岸が絶壁になった長瀬(とろ)や滝などが連なり、アルピニストの先駆者、故・冠松次郎氏が「溪谷それ自身の美に忘れ得ない程深い印象を受けることが出来る」などと、その著書に記している全国でも数少ない秘境。

しかし、双六岳(二、八六〇メートル)も編入されなかった。ところが、昨年六月、資源エネルギー庁が新しい水力発電地点の洗い出し調査の報告書を公表。その中に、北陸電力が双六谷上流を「開発可能地点」としてあげていることが判明した。日本山岳会自然保護委員会(国見利夫委員長)が富山支部(若林啓之助支部長)、岐阜支部(松井辰弥支部長)と合同で現地調査をしたうえ、このほど同山岳会として〇双六谷上流に人工



「溪谷美を守れ」 日本山岳会 環境庁に要望書



榑造物を造ると周辺の山岳景観を損なうとの電力需要は伸びが鈍っており、生活用水の不足は水のリサイクル、節約などで考えるべきだ(〇双六谷上流の天然林は水頭保安林としての価値が高く、国立公園に編入してこそ値打ちがある)と、国立公園編入を環境庁に要望、岐阜、富山両県にも協力を求めた。

これに対し北陸電力は「立

中部山岳国立公園 北アルプスのほとんど全域にあたる十七万四千三百二十三ヘクタール。全園でも四番目に面積の広い国立公園で、戦前の国立公園法施行時(昭和九年)に次ぎ第二次指定された。黒部第四ダムなど黒部川流域の大規模水力発電所は、環境庁発足(四十六年)以前の建設で、環境庁発足後、同国立公園内でのダム設置は市街地に比較的近い四地点だけ。

地調査は現在までしていない。また林野庁は材木(木材資源)として切り出す意向が、要望についてはいずれもコメントを避けている。

環境庁の次の国立公園編入見直しは六十四年。同山岳会は岐阜支部が今秋、現地調査するなどさらに運動を強める予定で、国見利夫・同山岳会自然保護委員長は「国立公園外であれば、いつ溪谷美が壊されるかも知れず、何とか編入で乱開発の歯止めをかけた」と話している。

谷・双六谷

区内営業 関東支社(茨城群.埼.新)の番頭を
しております。8/8と登り残しておいた富士山に
登って来ました。年をとるとはよくわかりました。

倉持 和彦 (1)

特に変わったことは

ありませんが、ただただ年のみぞ
と後悔の日々です...

秋葉 晃介 (4)

80才の足がすくなく不自由な義父と夫、孫(孫女
と孫)と息子(おと高に守れた)と5人、京都の町
に生活しています。息子はとして、血に付いた生
もともて、お茶(妻)とお花(娘)とはじめた中
年のおばさんです。鈴木先生御夫妻はじめ皆様
にはお念のためしたためてお祈りと同居に
つき居る時間を留守は夫が留守です。

池田 圭三 (4)

今年1月より12月までイタリヤの
フラットに長期出張致しております。

竹井 良夫 (4)

相沢がサカカをいじります。
鈴木先生には、皆様に宜い
御返事下さい。

相沢 亮彦 (5)

7月4日、上記へ転居。母と同居して
おりますが、7月16日付けで九州地方建設
局福岡工事事務所へ転勤。単身赴任
の身となりました。

朝倉 肇 (5)

山にはいはいく行っていないけれど、
子供も大きくなったので今年は一息を5人(6人)
で尾瀬、吾仙登山をしました。

鈴木先生にはお念のためお祈りのごさか
う厚くお国際会がかり御座います。出
席していません。よろしくお祈りします。

仕事は相澤が電報で起電をやってあります

後藤 隆成 (1)

9月初め、オーストラリア(シドニー)駐在所
に赴任の予定で、現在はその準備で
忙しい毎日です。家族は3ヶ月遅れて
12月、真夏のシドニーに渡り予定です。
とても素晴らしい環境のようです。

白井 洋行・美沙子 (4)

少しやせてきました。体調もよく
ほぼ予定通り山行 消化しております。
来週中央ア、8月にハケと飯豊
そして9月に平岳と予定しており
今が楽しみにしております。

関川 利男 (4)

最近海外要員になってしまったのか、
今年1~2月、8~9月にハケスタツ入。
(残念ながらK2合するタハコはなかった。
山は見え合っている現場)。来年5月からは
30ヶ月 インドネシア入。現場歩きで
少々キツク感じているようにもなっています。

平塚 征英 (4)

専学院工事に在任しています。
40才から始めた剣道で今年7月
3段になりました。山よりも
楽しい。スホーンかと思っております。
なっています。

大塚 浩司 (5)

単身赴任生活も一年が過ぎた
一人身、結構楽し... さん
いつか言いたい事がある...

櫻 洋一郎 (5)

辞職して今の勤務し昨日帰国した。
帰国15日半。昔の転勤と変わらぬ。
私単身赴任。

永くて、関西(中国地方)のつる善、関東の情況
つかぬ。マエマエにおおむ。

鹿島の言葉がなるく仙台へ近く。
つかなく思っているこの頃です。
早く家をマツた笑族と一緒の生活をすると思つておる。

水 正実 (5)

山登りはすっかり無沙汰ですが、
ここ数年、地価調査で年間1ヶ月
ぐらいいております。

木村勝弘 (6)

文部省の学習指導要領改訂作業で、8/6.7
と上京。学校とは異なり結構、大変
です。格本は身体が短く、目には失礼させ
てFsu。

高橋勝也 (7)

息子 岳弘は高校1年生。
娘 雪子は小学6年生。
息子はもう親と一緒に出かけなく
なりました。テントかついで、家族
で山に行つてた頃が懐しく
思われます。

佐藤拓哉・良子 (8)

親子6人元気でやっています。

ふゆこをつれて角五郎の新邸
におじゃましたことも、もう15年以上
前になります。又、おつかいする
機会がありましたら嬉しいのですが。

伊藤健一 千代子 (9)

先日家産で両神山登つて

空れた。徳川尚武 (5)

山にはもうすっかり御無沙汰しているが、
故障だらけの身体をムチ打って、
この秋の河口湖マラソンをめぐりてトレ=マ
にはげんでいます。

江原武 (6)

内高不況の中、秋田北鹿最後の金山
に降りてくすか、なんともかかっています。
双子の息子も小六になり、家族一同元気に
してあります。おれは芋玉時代同様
遊ばしに目が無く、草(西)マージン、
山菜取り、釣(山)海、スキーに精
出してありますので、心ゆくまで
仲間のお活躍と健康を、数方におまけの

恩田達也 (6)

北海道の熊になつて20年がたちます。
皆様にあ会い出来ることを心待ち
にしてあります。上田俊朗 (7)

4年ぶりに山登りに戻り、毎日仕事に
追われています。OB会も仕事で都合で
出席できずにあります。

渡辺幸英 (8)

現在、普免取得のため頑張つて...
というより、悪戦苦闘しております。
こんな目に会うと知らぬ間に、むと早く
その氣にふるべきたらぬと思われなくなり
ません。赤滝芳子 (9)

日本で最も人口の少ない鳥取県に住んで7年。緑豊かな田園をのんびり通勤しています。伯耆富士、大山は一度しか登っていません。家族と海に遊ぶ方が多いようです。

545年の夏合宿では先生に大部こ心配をかけた。

黒田和雄 (10)

出席は是非その頃のお話しもしたいのですが残念です。

せめて昨年より尾瀬村と中心にお山行とお様にお会い、中国地方、広島福山に転勤して、山行してあります。

長期休暇で、中央の山に行くの予定あり。

鈴木元昭 (11)

最近仕事忙しくなかなか山に行けず、お休みの8月上旬、松原から尾瀬に入り、帰りは「わかほり」行いで溪流釣りをしました。

園部 武正 (11)

4国へ王は早12年、瀬戸大橋南通9のラソン大会に於いて毎日ランニングをし体力維持を心がけています。

今 高司 (14)

地質調査という仕事柄、山(たれし匠の山ばかり)は未だに結構歩いてあります。

石井 武政 (15)

山は東京都中野区連盟の傍山の「水はの会」に入っています。夏は沢、冬は雪接を好みます。今度の冬は再び登山に挑戦です。

佐野豊 (19)

神戸に来て、16年目を向かえておられます。現在甲南病院に勤務していますが、将来的にと思え、今年お来月より、東京方面へ引越す予定です。

日中 康利 (10)

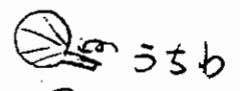
山に囲まれた長野市に住んでいるから、登ることは少なくなりました。すぐ近くから望むことのできる鹿島槍、五竜や高妻山も、遠く高い存在です。とはいえ、いっしょに出かける月のために体力維持には努めています。ジョギング、水泳、最近では自転車も取り入れて。

柴田 修 (11)

毎年の季節に予定自合宿と思い出の山を懐かしむ。山行には必ず参加して頂きたいと思っています。

町内 芳一 (11)

かすつゆで水不足が心配です。洗濯も手洗いに限ります。皆様も暑さに負けず、心身一如と頑張ってください。



池田 昇 (15)

7年間、北海道に居ましたが、今年の1月広島に転勤になりました。

最近で家族での湖畔ホトリブを楽しんでいます。木付 親次 (17)

通産省 工技院 東北工業技術試験所
に就職しました。

転居しました。安月給でもが幸せです
実際の山には行かぬか登山もせんか ぬか
は研究の山を1つ1つ登りつめていく所存です。

南條 弘 (20)

現在 日支電線(株)に勤務しております
仕事の関係上 時々仙台へ行きますが、
行くたびに仙台も新くなっていくよな気がします。
フンケル仲間とはいつか仙台で会いたい
思います。

本郷 晃史 (20)

昨年6月より、高松支店車庫と
なりました。又、いつ東京へRETURN
できるやら。

田舎の環境が大好きです。今夏
より、石巻/剣の登山を開始しよう
と思っています。

宮崎 幸二 (20)

5月に結婚し住居が変わりました

松林 隆幸 (23)

6月27日 結婚 致しました。

坂本 務 (21)

来22期(昭和55年度)まで、私の代の前後、
AOBで在仙にいらる方は院生しかおりま
せん。政宗ブームの仙台は地下鉄も
開業しより一層美しい街においであります

土屋 範芳 (22)

新年会のお知らせ

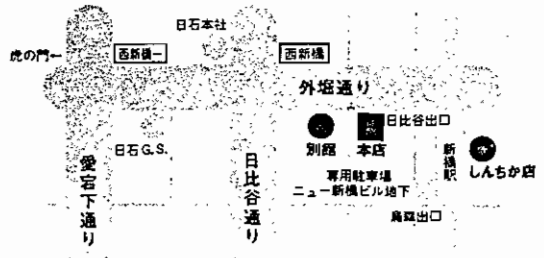
新年会は毎年1月の最終金曜日(来年は1月29日)、新橋の新橋亭本店で行っています。
今度からは鈴木祿弥先生にもご出席いただけたと思います。皆さんもぜひご出席下さい。

62年新年会参加者

- (S39) 大津満, 岡好宗, 後藤龍男, 遠山喬, 松本功 (S40) 及川悦, 小原佑一, 島崎質, 関川利男, 緑川学 (S41) 朝倉肇, 横山雄一郎 (S42) 安達丈夫, 加藤邦明, 西健, 和田勝寿, 渡辺文隆 (S43) 金子清敏, 菊谷清, 高橋直樹, 真尾征夫 (S44) 相原敬, 小笠原弘三, 佐藤拓哉, 濱聡, 水上俊彦 (S45) 石野好昭, 伊藤千代子, 富川正夫, 原田博夫 (S46) 甲斐利春, 菅原英行, 高野秀夫, 若佐則雄

中国料理 新橋亭

本店 東京都港区新橋2-6-3 〒105
TEL (03) 580-7811
年中無休 12:00P.M ~ 9:30P.M



長い編集後期

1. 珍しく仕事で仙台に行ったついでに部室を訪れてみました。18年ぶりの川内は昔とすっかり変わっていましたが、大学の雰囲気は余り変わっていないと感じました。昔は建物全体がみすぼらしかったので何とも感じなかったが、今は校舎が立派になった分昔の建物をそのまま使っている部室が余計みすぼらしく写りました。時間があまりなかったので皆とは会えませんでした。部室にいたOB1年の長谷川君や3年の岩村君と会うことができました。新しく部長になった野家君に会うことができなかったのは残念でした。週末には最終合宿があり、OB会長の小原さんが参加する予定とのことでした。これを機会に現役とOB会のつながりをもう少し深いものにしていきたいと思っています。
2. 寒い国、暑い国から帰ってきた2人を紹介します。
先日青葉工業会の会報を見ていたら、南極に越冬隊員としていっていた42年卒の野村さんの体験記が載っていました。信州大学で大気環境情報のためのレーザレーダ（ライダー）の研究を始めたのがきっかけとなって、南極に行くことになったそうです。「成功すれば英雄、失敗すれば非国民」と悲壮な決意で行ったようですが、南極の夜空に降り注ぐオーロラをレーザ光線で射抜くことができたようで、とにかくおめでとうございました。環境庁に入り、尾瀬、日光湯元などみんなが羨むところを渡り歩き、その後ケニアに行っていた46年卒の薄木君が帰って来ました。雄大なアフリカの自然の中で一度は暮らしてみたいと思うのは、ワンゲル育ちなら1人や2人ではないでしょう。次号では2人の話を聞かせてもらいたいと思っています。楽しみにしてください。
3. 来年の夏までに最新の住所録（勤務先を追加します）をお送りします。住所変更した場合は佐藤（S44年卒）まで忘れずにお知らせ下さい。
4. 年会費は1000円です。1ページ目の口座に振り込んで下さい。
5. 皆さんの近況、同期会の様子、みんなに教えたことなど何でも送って下さい。
53年卒の同期会が9月5、6日に那須岳で行われたようです。次号でぜひ話を聞かせて下さい。

青 春

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。逞しき意志、優れた創造力、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や狐疑や、不安、恐怖、失望、こう言うものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。年は70であろうと、16であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。曰く、驚異の愛慕心、空にきらめく星晨、その輝きにも似たる事物や思想に対する欽仰、事に処する剛毅な挑戦、小児の如く求めて止まぬ探究心、人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる。

人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる。

希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる。

大地より、神より、人より、美と喜び、勇気と壮大、そして偉力の靈感を受ける限り人の若さは失われない。これらの靈感が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを固くとぎすに至ればこの時こそ人は全くに老いて神の隣みを乞う他はなくなる。

サムエル・ウルマン

